

2019スマイルキッズどか点ティーボール大会

競技の約束

1. 目的 どか点ティーボール大会を通して、幼児並びに小学1・2年生同士の交流と親睦を深め、心身の健全育成を図ることを目的とする。
2. 目標
 - (1) 笑顔いっぱいティーボールを通して、外遊びのおもしろさを体感する。
 - (2) ティーボールを通して、打つ、走る、捕る、投げるという運動の基本動作を楽しく学ぶ。
 - (3) ティーボールを通して、人との関わり方を学び、社会性を養う。
 - (4) ティーボールを通して、支える人たちへの感謝の気持ちを育む。
3. 部門
 - (1) 幼児の部
 - (2) 小学校1・2年生の部
4. チーム編成 7~9名の選手と2名の保護者（または指導者）とする。ただし、人数の少ないチームは会場にて混成チームを編成する。
5. 競技場（競技図参照）
 - (1) 墓間の距離は、幼児5m、小学1・2年生10mとする。
 - (2) 墓はベースとする。ただし、触墓はしないで内野ラインと外野ラインの間を走る。
 - (3) 本墓、バッターズサークル（安全確保）は、本墓プレートを基点の半径1.5mに円を描くようにラインを引く。
 - (4) 本墓は、本墓プレート上またはその位置に置いたバッティングコーンとする。
 - (5) 本墓での得点は、バッターズサークルに打者が入ったときに得点とする。
 - (6) 守備ライン（内野ライン・外野ライン）・ホームランラインは、以下の通りとする。
①内野ラインは、一墓三墓と本墓二墓を結ぶ対角線が交わる点を中心とし、一墓の1m後方の地点から、三墓の1m後方の地点まで、幼児用は本墓から6m、小学1・2年生用は本墓から11mとなるようにふくらみをもたせて円を描くように引く。内野手はこの線上の所定の場所で構える。
②外野ラインは、内野ラインから2m（幼児用、本墓から8m）、4m（小学生1・2年生用、本墓から15m）後方の地点まで、一墓側から三墓側まで、円を描くように引いたラインとする。外野手はこの線上の場所で構える。
(注:主催者は守備位置の目安をマークしても良い。)

③ホームランラインは引かない。打者はボールが本塁手へ返球されない場合は、一塁（1点）・二塁（2点）・三塁（3点）へと回り、本塁（4点）に戻ったら、2周目に入り、更に一塁（5点）・二塁（6点）・三塁（7点）へと回ることができる。その都度得点が加算される。

（7）バッティングコーン後方4～5mに、攻撃側ベンチとして安全ラインを引く。

6. 約 束
- （1）打者は、思いきりボールを打つ。三振アウトなし。
 - （2）打者は、打った後、バットをフープかコーンの中に入れて走る。
 - （3）打者走者は、塁ベース後方の打者走路をしっかり走る。
 - （4）守備者は、打ったボールを捕るために動く。守備者は「わたし」「ぼく」と声を出して捕りに行く。
 - （5）ボールを捕った選手は、本塁近くにいる指導者（または球審）へ返球する。
 - （6）指導者（または球審）は、ボールをバッティングコーンの上に乗せる。ボールをバッティングコーンの上に乗せて手を離したとき、打者の回った塁の数が得点となる。
 - （7）指導者と打者チームの全員は、打者走者が一塁ベースを回ったら「1点」、二塁なら「2点」、三塁なら「3点」、本塁（バッターズサークル）を超えたなら「4点」、それでも返球されない場合には、2周目で一塁を回ったら「5点」と大きい声で打者走者の得点を数える。審判員（ティーボール・ティーチャー）はこれを確認し、その打者の得点を決定する。
 - （8）打者チームの全選手は、本塁・バッティングコーン後方4mの打者チームベンチライン（安全ライン）後方で応援する。
 - （9）内野手は4名～5名とする。外野手は3名～4名とする。なお、守備選手は対戦チームと同数とする。
7. 用 具
- （1）バッティングコーン1本、塁ベース4枚。
 - （2）ボール（11インチインドア用ティーボール・オレンジ）2個（1個は予備）
 - （3）フープまたはコーン1個（打者がバットを入れる場所）
 - （4）用具は、日本ティーボール協会公認用具とする。